

有志舎の新刊です。2021年2月下旬刊行

満洲国軍朝鮮人の植民地解放前後史

—日本植民地下の軍事経験と韓国軍への連続性—

飯倉江里衣 著

A5判・ハードカバー・380ページ 本体価格 6,800円

「満洲国」から韓国に引き継がれた植民地下の軍事経験とは？

他民族の中にコラボレーター（協力者）をつくり出し、彼らによって支配に抵抗する者を鎮圧した日本の植民地支配の実態を明らかにしながら、日本敗戦＝植民地解放後の韓国軍による民間人虐殺の起源に迫る。

(目次)

序章 日本植民地下で培われた軍事経験の継続の問題を問う

第I部 植民地下の朝鮮人と満洲国軍（1932～1945年）

第1章 関東軍による朝鮮人支配の実態

第2章 「五族協和」と「内鮮一体」の虚構

第3章 朝鮮人部隊「間島特設隊」の虐殺経験

補論 間島特設隊のもう一つの軍事経験

第II部 植民地解放後の満洲国軍出身朝鮮人と韓国軍（1945～1948年）

第4章 満洲国軍出身者の知られざる解放直後の「左翼」経歴

第5章 韓国軍の民間人虐殺に満洲国軍出身者はいかにかかわったのか

終章 満洲国軍朝鮮人の植民地解放前後史から見えてくるもの

〈著者紹介〉飯倉江里衣（いいくら えりい）：1987年生まれ、神戸女子大学文学部助教

～版元から～ 日本がつくった満洲国軍に入り、日本の侵略戦争と植民地支配に積極的に協力したのは朴正熙（パクチョンヒ）元韓国大統領だけではありません。朝鮮戦争の「英雄」と讃えられ、度々論争的的となってきた白善燁（ベクソニョブ）、朴正熙軍事独裁政権下で国務総理まで務めた丁一權（チョンイルグオン）など。彼らはいずれも植民地解放＝日本敗戦後には韓国軍で将校となり、民間人を弾圧する側にまわりました。本書は、満洲国軍での朝鮮人の軍事経験が韓国軍にどのように引き継がれたのかを問い、韓国における「親日派」問題とは何なのか、その歴史の深刻さを浮き彫りにします。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	満洲国軍朝鮮人の植民地解放前後史 —日本植民地下の軍事経験と韓国軍への連続性— 飯倉江里衣 著	日本史（近現代） 朝鮮史（近現代）
	ご担当	A5判・ハードカバー、380ページ 本体価格 6,800円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	新刊 ISBN 978-4-908672-47-7 C3022	

ご注文は (株) JRC (人文・社会科学書流通センター) へ

返品条件付注文です。

FAX : 03-3294-2177

電話 : 03-5283-2230